

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 医歯学域医学系教授

氏名: 丸谷美紀

授業科目名	基礎看護・地域看護学特別研究
研修先(国・地域) 滞在地	国名: 米国 滞在地: ボストン
研修期間	H28年9月3日 ~ H28年9月10日
〔研修の成果〕 <p>トリニティ教会では、生活困窮者への食事・住居・保健医療の提供状況の実際を知り、鹿児島の状況と比較し、生活困窮者の健康支援に研究的に取り組む素地を養えたようだった。ボストン小児病院では、多様な生活背景の患者へ配慮の実際を知り、人種や国籍等、社会的な問題の大きさを知った。また、離島・僻地等の交通や流通の乏しい地域に対し、医療従事者や施設を投入するのみでなく、経済・教育等、多方面からの支援が重要であることを再確認した。また、ナースプラクティショナーが、心身の状態をアセスメントし、必要な処置・処方ができることで患者のニーズに速やかに対応できることを知り、離島やへき地の多い鹿児島県での適用に関心を高めた。ボストン大学では、演習風景を見学し、個室での学生同士の演習や状況設定された演習の様子に、実践に近い学習方法の追究に関心を示した。また、ナースプラクティショナーの教育の説明を受け、自己の看護実践を省察する貴重な機会となった。ハーバード公衆衛生大学院では、イチロー・カワチ教授と面会し、直接に健康の社会決定要因の重要性を伺い、勉学への動機づけが高まった様子だった。社会疫学研究の授業を聴講させていただき、教育・経済等と健康の関連を追究する社会的意義を再確認した。授業後、大学院生やポストドクターと交流し、進学動機・進学準備大学究生活を知り、今後の自己の学究生活や将来の進路選択に意欲が高まった。大学院生が活発に授業参加し、互いの意見を戦わせている様子に刺激を受け、多くの人々との意見交換により高次の研究・実践に発展していくことを実感した様子だった。また、日本からの留学生の中には、大学や省庁から留学している大学院生もいることを知り、将来の選択肢が広がったようである。</p>	
〔今後の課題〕 <p>今回は、病院・大学共に見学・聴講という形が多かったため、将来の共同研究の可能性まで発展が見られなかった。しかし、鹿児島大学の大学院生の研究方法が質的研究であることに関心を示していただき、今後は、具体的な研究内容まで討論できるよう、研究手法に関する知識や語学力も高めてから海外研修に臨みたい。また、ハーバード公衆衛生大学院は The New England Journal of Medicine の 編集局を有しており、将来の投稿等も視野に入れて指導して行きたい。</p>	